

鐘華会九州支部だより

九州支部だより 第 13 号
発行 2007 年 11 月 20 日
発行者 中 村 晃

黒崎祇園山笠、香港を駆ける

上野 與志隆



2007 年 2 月 18 日の中国の旧正月、香港のニューイヤーパーレードに参加することになった黒崎祇園山笠一行は 2 月 17 日(土)北九州空港 13 時 40 分初のドラゴン航空チャーター便に乗り込む、総勢 180 名。

先発隊は既に香港入りし、山笠組み立て、飾り付けを行っているとか。本体は本番までは観光旅行並みのスケジュールであった。

小生は役立たずで、ただ付いて行くだけ。夕刻九龍の日航ホテルに着くと近くのレストランに、超満員のすし詰めで夕食をとった。

夜 9 時よりオープンバスで夜の観光に出かける。ネオンがきらびやかなのにはびっくりした。夜遊びして就寝したのは深夜 1 時頃となった。18 日(日)のパレード当日は朝 7 時に起床、山笠担当責任者以外は夜の本番までまた観光。

88 階、78 階と 400m 以上の超高層ビルが林立する香港島に船で渡る。しかし香港の超高層ビルを竹の足場で建設や補修をしているのにはびっくり仰天。

島の高いところは高級住宅街で、島の反対側に廻ると浅水湾のリゾート地、映画「慕情」で有名なところである。帰りにはご一行様案内の買い物に。安物買いの銭失いで土産を買うことにした。

夕刻、一旦ホテルに戻り、午後 4 時には全員法被を着て、徒歩でパレード会場の香港文化センターに行く。手渡された弁当を食べ、出番まで待機。

世界各地から 42 グループの参加で我々は 38 番目。時間をもてあました若い衆は目の前で出番を待つ外人の美人バニーガールとすぐ仲良しになりスナップ写真を撮っていた。彼女達の出発になると「オイサ！オイサ！」と若い衆が景気の掛け声をかけると、にこやかに返礼が帰って来る。

やっと夜 8 時になって出発の合図があり、駆け足で山を昇って会場内に入場する。日本の伝統法被をまとった昇手衆が「オイサ！オイサ！」と威勢よく、戦国合戦中の武者人形で飾られた山笠を会場狭しと

練り廻ると、スタンドの観衆はヤンヤの

喝采でどよめきとなった。その勢いで会場を後にし、20 万人以上の観衆の待つ九龍の街中に出て行く。先ず広東道を練って廻る。6 km 上ると U ターンしてネイザンロードを会場の方に向かってまた練り下る。明るく輝く武者人形の山笠が観衆の前でぐるぐると練り回されると、「ナンバーワン、ナンバーワン」拍手喝采が起こる。小生は山笠の後ろについて、「オイサ！オイサ！」と観客に向かって囃子をかける役割。

ペニンシュラホテルの前を通過して会場に戻ってきたのは予定時間を 1 時間も過ぎた夜の 11 時頃とな

ってしまった。

みんなクタクタになっている。三三七拍子の手締めを終えると、打ち上げ会場に行き会食。終わったのは午前 1 時を過ぎていた。疲れ果ててはいたが、アルコールも入り快い感覚であった。後で聞いた話であるが、このキャセイパシフィック航空主催のニューイヤーパーレードは全世界に TV 放映されたとのことであっ



た。

日本からは“ねぶた踊り”と黒崎の“祇園山笠”の 2 チームで、黒崎の山笠が世界にピーアール出来て良かった。間を取り持っていたいただいた日本領事館に感謝。

翌朝、眠い目をこすりながら、新聞を買いに行くと、なんと山笠の大きな写真付きの記事が目についた。ハウ・サイ・レイ (最高!)。コン・オウ・シャイ・ヘイ (恭賀新年)。昼の飛行機で北九州へ帰る。楽しい二泊三日であった。

聞きかじりの中国語ですので、間違っていればどなたか正解を教えてください。ムゴイ (謝謝)

尾瀬を歩く

市 木 丞



♪ 夏が来れば 思い出す
はるかな尾瀬 遠い空
霧の中に浮かび来る
やさしい影 野の小道
水芭蕉の花が咲いている
夢見て咲いている・・・♪

★「夏の思い出」という唱歌の題名です。

昭和26年にNHKラジオで放送された歌で誰もが一度は口にした事があるでしょう。この歌に惹かれて「ミズバショウ」を観に「尾瀬」なる所へ行ってきました。

★「尾瀬」って何処にあるの？

尾瀬と言う地名は知っているが、それがどこに位置しているのか実際そこを訪ねた事のある人以外は明確に答えられないと思う。

尾瀬は日光国立公園に属し、本州のほぼ中央部に位置している。周囲を2,000m級の山々に囲まれた、盆地状の地形で花と湿原と湖で見事な景観を成している。

北関東・群馬～東北・福島～越後・新潟の3県に跨がっている。そしてその面積は8,760haにも及ぶと言う。この広大な8,760haの内、国有地は新潟(5%)福島(25%)の僅か30%しかない。残りの70%は東京電力の私有地で

ある事に驚きを隠せない。そしてその大部分が群馬内に位置している。

深田久弥著「日本百名山」のうち2座が鎮座している。燧ヶ岳(2,356m)・至仏山(2,228m)これら以外にも沢山の名峰があり登山口は全て福島県・群馬県側のみにある。

★「尾瀬」って何もの？

尾瀬は二つの地域に別れている。一つは群馬と福島に広がっている「尾瀬沼」でもう一つが新潟と群馬に跨がって「尾瀬ヶ原」がある。これらを総称して「尾瀬」と呼んでいる。

尾瀬は周囲を2,000m級の山々に囲まれ本州最大の山岳地帯に在る高山寒冷地の湿原です。

二つの高山湿原に代表される花が雪解を待ちかねた様に咲き始める「ミズバショウ」や「リュキンカ」が湿原いっばいに咲き誇り、湿原が日中黄色そして青(緑)色に染まり見事なコントラストを成している。

★尾瀬と東電？

自然保護活動の原点とも言われています。東電は尾瀬の70%にも及ぶ土地を所有しています。何故にこの広大な湿原を手にしたか。明治・大正・昭和と電力の需要が急速に高まりました。当時発電の中心であった水力発電所の建設のために、この広大で水量



の豊富な湿原を活かそうと、土地と水利権を取得したのです。

明治の中頃から檜枝岐村（ひのえまたむら・福島県）在の平野長蔵翁が東電の開発を知る事となり、尾瀬の擁護に生涯を捧げた人です。そして息子や係にその活動は引き継がれて東電による開発は中止となり、現在の自然を確保し保護されているのです。

私も各地の公園や登山の経験を多少は持っていますが、これ程に厳しい自然保護に熱心な場所は初めての経験でした。特に外来種の移入に異常なくらい神経を使っている。外来種の勢力に押されて在来種が追いやられてしまう恐れが出て来たそうです。特に靴底に着いている種のために入山口に種子落としマットが敷いて在ります。その他には靴底の洗い場もありました。

★木道を往く

尾瀬を代表する風物詩として、木道があります。この尾瀬を歩く時、何の違和感、抵抗感もなく当たり前の様に、尾瀬と一体化している。この木道は1954年に福島県側で歩く人の足を濡らさないため、汚さないための物で、湿原を保護する物ではなかったらしい。

いまこの木道は、湿原の保護が第一だが、老若男女が誰でも安心して歩けるように設計され整備されています。

この木道、大部分が複線化されている。その総延長は、およそ60数kmにもなる。木道の維持管理費用が1m当たり5万円相当要するそうだ。

木道に使用されている材料は、折れにくくて水に強い国産「カラマツ」を敷設しているそうです。10年前後で架け替え、維持しているらしい。

しかし、今回この木道を歩いていて湿気の木道・残雪の木道は“滑る”という恐怖感が常にあり歩行に神経を使いました。



★「ぼっかさん」が行く

「ぼっかさん」は“歩荷さん”と書く。富士山では「強力＝ごうりきさん」と親しみを込め呼んでいる。背負い子さん達は山での生活者には欠かせない存在の人たちです。

尾瀬を歩いているとたくさんの荷物を背負い子に付けて歩く人を見かけます。山小屋で必要な荷物の大部分はヘリで荷揚げされているけど尾瀬にヘリは常駐していません。

「ぼっかさん」達は毎日新鮮な野菜や生活用品を運んでいるのです。5月～10月中旬まで雨の日以外はほぼ毎日荷物を運んでいる。ベテランの「ぼっかさん」で1回に背負う荷物の重さは80～100kgだそうです。

「ぼっかさん」達が荷物を背負っている時に話かけたり、正面から写真を撮ったりする事は礼を失します。彼らは尾臓が職場で業務中なのです。尾瀬か好きな人達ですから情報は持っています。彼らが仕事を終えての帰り

道で出会ったら友達になってください。

★尾瀬と100円玉

尾瀬では清らかで豊富な水に感動を覚える。山岳ガイドから出発の時100円硬貨を準備する様にと指示があります。尾瀬には公衆トイレが設置されています。このトイレを使用する際に100円の浄財が必要なのです。有料ではありません。污水处理費用の一部を登山者で負担するのです。

★尾瀬への入山口は幾レフものルートがあります。今回は福島県側から入山しました。

残雪が朝日に映えて美しい会津駒ヶ岳（2,139m）をバスの車窓から眺めながら会津高原を後に約120分で尾瀬沼への入り口である燧ヶ岳（2,356m）の中腹にある御地（1,600m）に着く。

★自然（環境）保護のため全ての乗り物はここが終点です。山岳ガイドの尾瀬沼への入山注意に耳を傾け準備完了です。今日の出発地点の沼山峠（1,784m）迄は徒歩かシャトルバスで約20分です。

★今日の行程は沼山峠からの人道の階段を降りて～尾瀬沼（665m）～三平峠（1,762m）～大清水（1,180m）まで、標高差600m、距離にして約13kmの踏破を目標に、期待いっぱいの所用時間240分の行軍です。

★小屋で買い求めた植物図鑑を片手に燧ヶ岳の残雪を遠目に眺めながら歩を進めた。尾瀬のもう一つの名物である「木道」。滑る「木道」に気を配り乍ら尾瀬沼を目指して風景を楽しみながら淡々と歩き続ける。

★黙々と木道の階段を降りる道中には九州では見る事のできない草花達が疲れを癒してくれます。中でもザゼン草（座禅）ヤグルマ草（矢車）キヌガサ草（衣笠）7月になればミズバショウに替わって見頃になるニッコウキスゲの固いつぼみ。

★燧ヶ岳や至仏三山（2,228m）の山裾に広がるシラカバやダケカンバの林に思いを寄せて歩くこと50分、視界が開け、我が口を疑う様な光景に山会う。

白のミズバショウ・黄色のリニュウキンカが咲き乱れている最初の群生地大江湿原に到着。清楚に咲き誇る情景はただ感嘆あるのみです。

★大江川流域に広がる「大江湿原」は、尾瀬沼周辺では最大の湿原です。この水量を豊かに保っているのが「地塘＝ちとう」と呼ばれる水溜まりです。その尾瀬には無数の水溜まりがある。

この地塘は長い日照りが続いても水位が変わる事なく尾瀬沼の植物達を支える原動力となっているそうです。

★尾瀬ヶ原湿原の入り口の鳩待峠（1,600m）までバスに揺られて60分、至仏山の裾野に広がるもう一つの尾瀬へと向かった。

尾瀬ヶ原（1,400m）へと標高差200mを残雪や苔の付いて滑りやすい木道に注意を払いながら一気に降りると視界が広がり湿原一面にミズバショウの群生を見た。その湿原の中には本道が施敷されている。その木道を自由に散策し自然を堪能する事ができた。

★至仏山への登山？！

今回の旅では残雪を踏みながら山歩きが、もう一つ望みだった。残念ながら夢かなわず尾瀬を歩いていると方々に“くまに注意”の看板が目につく。雪どけが進みくまさんが腹を空かして餌を求めて活動期にあり危険である。山岳カイドに諫められ残雪の山歩きは断念。ざんねん！

★追記

尾瀬は1934年に日本では4番目の国立公園「日光国立公園」の一部として73年余たくさんの人を楽しませてくれました。地元民の良年の希望であった日光国立公園からの独立が実現しました。

★2007年9月30日に全国29番目の国立公園として新たに群馬・福島・栃木・新潟の4県にまたがり総面積約37,000haの広大な面積で「尾瀬国立公園」としてスタートしました。

★最後に

尾瀬は広い・美しいその魅力は無限です。一度や二度の山歩きでは語り尽せない。もう一度も二度もと行きたい所です。



< 新 入 会 員 自 己 紹 介 >

◆ 森田 範行さん



『東京で生まれ、大学を出るまで東京から出たことが無かった自分が、今年5月15日の定年を、九州の勤務地で迎え、そしてもう少し九州に勤務するようですので、これもひとつの縁と考え、九州鐘華会に入会しました。』

スキーが趣味な関係で、北の方角には馴染みがありましたが、九州の認識は薄かったのが約2年前までの自分でした。

しかしこの2年間、山海の珍味を食し、下手くそですが手軽にゴルフが出来る九州生活を満喫しています。今後ともよろしくお願い致します。』

① 生年から現在まで

1947年(S22)3月 東京都青梅市で生まれる
 1969年(S44)3月 早稲田大学第一法学部卒業
 4月 鐘淵化学入社
 (坂本工場被覆線課実習)
 5月 大阪工場勤務課配属
 1971年(S46)4月 東京支社樹脂製品課転勤
 (カネライトフォーム関東地区販売開始に伴い)
 1975年(S50)4月 中央研究所総務課転勤
 1978年(S53)9月 東京カネカ食品出向
 (横浜支店)
 1991年(H3)10月 食品事業部転勤
 (大阪本社・販社総括担当)
 1996年(H8)12月 東京カネカ食品出
 (本社広域市場販売部)
 2000年(H12)6月 食品事業部転勤
 (東京支社・広域担当)
 2005年(H17)5月 九州カネカ食品出向
 2007年(H19)5月 カネカ定年退職
 九州カネカ食品勤務

② 趣 味

スキー

郷土芸能(囃子笛・三匹獅子笛)

③ 住 居

家族：横浜市青葉区桜台(妻・娘2)

実家：東京都青梅市梅郷(空家)

単身先：福岡市博多区駅前1丁目

◆ 武田 敏光さん



現在の住居は、兵庫県高砂市であります。九州は懐かしい所でもあり、九州支部への入会をさせていただきます。

略歴のとおり、発泡スチレンしか経験なく、堅物のものですがよろしくお

願いします。

出 身 地 福岡県三井郡北野町

(現在久留米市北野町)

生年月日 昭和22年9月21日

略 歴

昭和43年 久留米工専 卒業

43年 NEC入社

44年 (株)カネカ入社(途中)

合成樹脂製造部発泡スチレン課 配属
 発泡スチレン製造技術を担当しH7まで

平成7年 九州営業所へ転勤

(当時中村所長の下で営業担当)

8年 カネパール技術サービスへ転勤
 (大阪工場勤務)

9年 宮城樹脂(株) 出向

13年 北浦樹脂工業(株)出向

19年 (株)ハネパックへ出向

19年11月15日 定年退職

19年11月16日 (株)ハネパックへ就職
 現在に至る

趣 味

・テニス 高砂勤務以来現在も佐賀、高砂で続いています。

・家庭菜園 定年後ゆっくりやろうと考えいます。

家 族

子供 3人(男2) 妻



【平成19年度 支部活動報告】

◇ 既に実施した行事

年	月	日	活 動 内 容
19	01	26	(鐘華会役員会)
	02	14	支部役員会
	03	09	職場訪問 (KMC) 懇親会 (9/18)
	03	10	OP 戦・夜須高原 GC (3/7)
	04	21	第15回 GC・三井 GL (5/15)
	05	15	支部だより 12号発行
	08	07	支部役員会
	10	20	第16回 GC・小岱山 GC(7/30)
	11	05	例会打合せ

◇ これからの予定

年	月	日	活 動 予 定
19	11	20	支部例会
	11	20	支部だより 13号発行
	11	21	第17回 GC・湯布院 CC
20	01		鐘華会役員会
	02		支部役員会
	03		職場訪問・懇親会

(特記事項)

*KMCの職場訪問は総勢18名(内鐘華会9名)と大いに盛り上がった。特に現役の連中が各地から参加してくれたのは感謝!

*春の「あひる会」は川上さんがBGで、春に続いて総合準優勝。

*秋の「あひる会」は薬師寺さんが総合3位、橋本さんが総合4位と健闘されました。

【人の動き】

< 新入会員 >

*H19.05 山中俊一さん(12号で紹介済)

森田範行さん(前頁で紹介)

*H19.11 武田敏光さん(前頁で紹介)

< 欠席者の近況報告 >

・江崎昭三さん

10月半ばを過ぎ、涼しくなりました。皆さんお元気でしょうか?今年5月末大腸がん手術から体力回復中で、今回は残念ですが、欠席します。皆さんによろしくお伝えください。

・駒走隆道さん

4月21日付けで5期10年勤めた玖珠工業社長を退任し退社。

2月20日救急車で入院。3月30日退院。4月9日に姫路にて大動脈瘤の人工血管置換手術を受ける。心臓バイパス、低体温(20℃)での手術で、手術時間は9時間でした。5月8日退院し、自宅療養中。

薬は4種類も服用しています。昨年まで健康で年2回献血していたのに、健康寿命が尽きてしまいました。カネカの同期会が先日ありましたが欠席しました。支部例会の盛会をお祈りします。

出席の皆様によりしくお伝えください。

・橋崎賢治さん

今回は欠席いたします。

今年の夏は非常に暑く体調が悪くよわっております。

・山口敏夫さん

ご無礼いたしております。

どうにか元気にはしておりますが、体力的にはかなり老化したようです。ウォーキングが日課です。

・小城一洋さん

暑い秋ですが静かに暮らしています。皆様お元気で。

・縄田順孝さん

当日は残念ながら別のOB会があり、参加できません。皆様のご健勝をお祈りします。

あとがき

- ・上野與志隆さんには間垣部屋の後援会長とし、九州場所直前の超多忙な時期に無理を承知で、香港紀行を書いてもらいました。謝謝!
- ・市木さんは、今度は尾瀬です。“夏が来れば思い出す”昔のことを思い出された方も多いと思います。
- ・新入会員(山中さん、森田さん、武田さん)が増えました。支部としては大変喜ばしいことですので、暖かく受け入れたいものです。それにしても、前回の山中さんに続いて森田さん、武田さんも指名手配の写真のようですが、皆優しい人達ですのでご安心ください。
- ・江崎さん、駒走さんから闘病の報告をいただきました。一日も早く回復され、来年の例会には元気な姿を見せていただくことを願っています。お互いに健康には気をつけましょう!
- ・社内販売のコエンザイムQ10と化粧品品の送料を会員に限り9月1日より無料にしましたので。この機会に健康に美容に是非お試しください。

ご注文は九州カネライト 成相さんまで

電話:0942-54-1992

E-mail: Sadao_Nariai@ken.grp.kaneka.co.jp